

Press Release

CeMAT 2014 結果報告書

2014年5月

2014年は国際色が強まり、商談と投資額が増加

– CeMAT は世界最大のイントラロジスティクス見本市としての地位を確立

5月19日（月）から23日（金）までドイツ・ハノーバーで開催された国際マテリアルハンドリング・イントラロジスティクス見本市 CeMAT（セマット）2014は、ドイツ国外からの参加者比率が高まり、1,025社にのぼる出展社（そのうちの58%はドイツ国外から出展）によって4,000件の新技術や新製品が披露され、成功裡に閉幕した。主催者であるドイツメッセ株式会社の国外見本市及びCeMAT担当である取締役副社長のDr. Andreas Gruchow（アンドレアス・グルホフ）は、大盛況だったCeMAT 2014について次のように総括した。「Smart（スマート）－Integrated（統合）－Efficient（効率化）というテーマの下で開催したCeMAT 2014では、市場での競争優位を維持しようとする事業者であれば、どのビジネス分野においても必須となるハイレベルな物流技術が出展された。CeMAT がイントラロジスティクス業界における世界最大の国際専門見本市であることは、屋内外の展示会場で披露された物流にかかわるソリューションと製品によって一目瞭然であった。ビジネスチャンス을期待してハノーバーに結集した出展社は、結果に満足した。CeMAT 2014では、物流業界が活況を呈していることを実証し、約17万件の商談が行われた。このビジネスコンタクトの数は、2011年に比べて飛躍的な増加である。出展社はみな今年の成果に大いに満足しており、数百万ユーロにもものぼる受注を獲得した会社もあったようだ。」



CeMAT 2014 の来場者は世界 65 カ国から 53,000 人にもものぼった。その内訳は、外国からの参加者が 33%で、そのうち EU 圏内からの来場者が 70%、続いてアジアの 13%、次に南北アメリカの 9%、そしてアフリカが 5%、オーストラリアが 3%である。来場者の上位 15 カ国は、順にオランダ、イギリス、ポーランド、チェコ、イタリア、オーストリア、フランス、アメリカ、ベルギー、スペイン、スイス、スウェーデン、ロシア、南アフリカ、中国であった。その中で、イギリス、ポーランド、アメリカ、ロシアからの来場者が増加した。今年の CeMAT では前回の 2011 年に比べて、世界のイントラロジスティクス産業をリードするアメリカからの来場者が約 2 倍もの伸びをみせた。また、「特にロシアとブラジルからの来場者が増加した理由は、当社が世界展開する CeMAT イベントの影響がポジティブに作用したからである。このように CeMAT RUSSIA と CeMAT SOUTH AMERICA が、ハノーバーで開催した CeMAT への来場者増に影響をおよぼしたことは明白である」とグルホフは付け加えた。

今回の CeMAT 来場者の 80%は、具体的な投資計画を持ち、購買決定権を有していた。またドイツ国外からの来場者は、ドイツ国内からの来場者と比較してほぼ倍近い購買意欲を持ち、二人に一人は経営幹部であった。グルホフは、「おそらく 100 億ユーロ（約 1 兆 4000 億円）を超える取引がここで繰り広げられたことだろう」と CeMAT 2014 の成果を述べた。

ドイツ機械工業連盟（VDMA）の物流・ロジスティクス技術工業会の会長である Sascha Schmel（ザシャ・シュメル）は、「国際化は、特にドイツにおいてはイントラロジスティクス業界の成長を表すキーワードである。ドイツのイントラロジスティクス分野の企業の実に 19%が輸出志向型であり、これは中国よりも 5%、アメリカよりも 8%高い水準にある。2013 年のドイツのイントラロジスティクスに関わる輸出額は、130 億ユーロであった」と述べた。

CeMAT 運営委員会議長で BEUMER Group GmbH & Co. KG の会長兼最高経営責任者である Dr. Christoph Beumer（クリストフ・ボイマー）は、「イント



ラロジスティクス業界は、産業界のイノベーションを推し進める原動力となっており、関連業界に対して成長をもたらしている。実際にイントラロジスティクスなくしては、自動車産業、卸売りと小売り事業、e コマース、機械産業等、あらゆる分野での成長発展は考えられない」と、イントラロジスティクスの重要性を強調した。さらに、「CeMAT 2014 のモットーの Smart – Integrated - Efficient は、時流に沿ったものであった。イントラロジスティクスに関わる全てのサプライチェーンに対して、包括的かつスマートな技術を獲得していくために、業界の幅広いノウハウを適用していくというニーズを反映したものだ」と続け、「この動きは、例えば、将来的に経済成長が見込まれる BRICs 諸国にも広がっている」と述べた。

CeMAT の新たな手法であるテーマごとのカテゴリー展示は、参加者に歓迎された。**Move & Lift、Store & Load、Pick & Pack、Logistics IT、Manage & Service** のテーマ会場では、出展社が総展示面積 12 万平方メートルを利用して自社の製品を紹介した。ドイツが提唱する第 4 次産業革命といわれる Industry 4.0 は、会場全体で重要視されていた。また、柔軟性の高いダイナミックなマテリアルフローとシステム全体にわたるシームレスな通信の実現にも焦点が置かれていた。産業用画像処理の分野では、出展社は梱包、生産、コンテナ管理分野の最新技術を出展した。人間工学に基づいた倉庫とピッキングステーションのニーズに対応した人員配置方法も注目を集めた。今回の見本市で新たに披露された製品は、倉庫や重量物に対するピッキング処理の最適化が可能なメガネ型のウェアラブルディスプレイ、倉庫とそれに関わる物流プロセス全体を管理できるタブレット端末の活用技術であった。

また CeMAT 2014 では、イントラロジスティクスの主たる用途や重要市場にフォーカスした様々なフォーラムが用意された。フォーラムのテーマは広範で、人員配置、小売業と卸売業、化学と医薬、サプライチェーンマネジメント、無人搬送システム、港湾、プロセスの最適化、e コマース、有害物質、人間とマシンのコミュニケーション技術、品質保全と安全性、産業用画像処理技術などが取り上げられた。



新企画のオープンエアサイトで繰り広げられた中古産業用車両の展示は、多くの来場者を引きつけ、数多くの車両が購入された。

なお、日本からは現地法人も含め、次の企業が出展した（順不同）：

象印チェンブロック株式会社（大阪狭山市）株式会社東芝（川崎市）、北洋電機株式会社（大阪市）、理想科学工業株式会社（東京都）、豊田マテリアルハンドリング、三菱フォークリフト、株式会社キトー（山梨県）、伊東電機株式会社（東京都）、川崎重工業株式会社（東京都）、等。

次回 CeMAT は 2 年後に開催

CeMAT 2016 は 5 月 31 日（火）から 2016 年 6 月 3 日（金）までドイツ・ハノーバー国際見本市会場で開催される。ドイツを代表する見本市運営会社の一つであるドイツメッセ株式会社は新価格体系を導入して、出展社のニーズに対応したより柔軟で細分化した屋内外展示会場用の出展オプションを提供する。そして、さらなるイノベーションとして、2014 年 12 月から出展意思のある企業がサイトに掲載される会場レイアウトプランを見てオンラインでスペース予約をし、電子メールで即時確認するシステムを構築する予定である。

CeMAT Worldwide

CeMAT は今や国際ロジスティクス市場に欠かせない屈指の国際専門見本市として成長した。このため CeMAT の主催者であるドイツメッセでは、世界で最も成長著しい 5 つの地域において、以下の通り地域 CeMAT を開催する。

CeMAT RUSSIA—2014 年 9 月 23 日～26 日（ロシア・モスクワ）

CeMAT ASIA—2014 年 10 月 27 日～30 日（中国・上海）

CeMAT INDIA—2014 年 12 月 10 日～13 日（インド・デリー）



Deutsche Messe

CeMAT

国際イントラロジスティクス見本市

会期：2014年5月19日～23日

会場：ハノーバー国際見本市会場



CeMAT SOUTH AMERICA—2015年6月30日～7月3日（ブラジル・サンパウロ）

CeMAT AUSTRALIA—2015年5月開催予定（オーストラリア・シドニー）

また関連イベントとして、**MATERIAL HANDLING EURASIA**（2015年3月、トルコ・イスタンブール）と **INTRALOGISTICA ITALIA**（2015年5月19日～23日）を開催する。

当リリースの全文は、[こちら](#)からダウンロードできます。

その他のプレスリリースと写真は、以下でご覧いただけます。

www.cemat.de/pressservice

CeMATに関する詳細はハノーバーフェアーズジャパン株式会社へお気軽にお問い合わせ下さい：

ハノーバーフェアーズジャパン株式会社

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-5-1 TobunshaBLDG1 階

Tel: (03) 5215-7121 Fax: (03) 5215-7122

<http://www.hannovermesse.co.jp/>